

公募試験研究課題②： テンサイシストセンチュウ対策に導入可能性のある輪作候補作物の防除効果及びリスクの評価に関する研究

経費限度額：7,033 千円（令和 7 年度）

研究実施期間：令和 7 年度～令和 9 年度

背景、研究の必要性（国際情勢、緊急性等）

長野県の一部地域で緊急防除を実施しているテンサイシストセンチュウ（Hs）については、発生ほ場での密度低減のため、土壌消毒（D-D 剤）による防除を実施しているところ

です。
しかしながら、防除後に寄主植物の栽培を再開した際の Hs の再発生や、これまで Hs が確認されていない周辺地域において、恒常的な寄主植物の栽培による新規発生事例が散見されています。

このため、これまでに Hs が確認された地域における通常の営農活動を早期に再開させつつ、本線虫の再発生又は発生を防止するためには、より効果的な防除技術の確立が必要となっています。具体的には、現地の生産者が通常の営農の中に導入・普及が可能と見込まれる輪作候補作物の防除効果を評価した上で、非寄主植物や捕獲作物の栽培を組み込んだ輪作を導入・普及していくことが急務となっています。

研究内容

1. 標準的なふ化促進評価手法の確立

（具体的な内容）

輪作候補作物の Hs に対するふ化促進効果を防除効果の評価基準とし、評価に適した供試シストの調整手順の標準化や必要な試験期間等の検討を行い、標準的な評価手法を確立します。

2. 輪作候補作物の Hs に対するふ化促進効果の評価

（具体的な内容）

文献調査や予備的な試験により輪作候補作物の Hs に対するふ化促進効果の事前評価を行うとともに、研究内容 1 で確立した手法により科学的な評価を行い、防除効果が高く、かつ、現地の営農に導入可能な輪作候補作物を幅広く選定します。また、そのうちの複数候補について、その防除効果を実地検証等により確認します。

3. 輪作候補作物への Hs の寄生性の評価

（具体的な内容）

輪作候補作物について、Hs の寄生性の科学的な評価を行うとともに、そのうちの複数候補について、輪作作物としてリスクがないことを実地検証等により確認します。

研究成果の行政施策・措置への活用

Hs に対する防除対策の高度化を図り、必要に応じて緊急防除に関する省令等の防除措置に係る内容の見直し等の検討を行います。

<留意事項>

- ・実施主体は、Hs を取り扱うために必要な施設を有しており、Hs の生態、防除等について専門的な知見を有する者としてします。
- ・研究内容 2 及び 3 については、Hs 発生地域の関係機関と十分に調整の上、現地の生産者が通常の営農の中に導入・普及が見込まれる作物を対象に実施することとします。
- ・研究の方針や詳細については、採択後に植物防疫課と十分に相談した上で決定することとします。また、研究の進捗状況や得られた成果を植物防疫課に随時報告するとともに、研究の進め方について随時相談することとします。

本研究課題内容に関する問い合わせ先

担当者：消費・安全局 植物防疫課
国内防除第 1 班 中園、高西
代表：03-3502-8111（内線 4564）